

いま、防災を考える

今年4月に発生した「平成28年熊本地震」では家屋の倒壊や家具の転倒などにより多数の死傷者が発生し、今も多くの人が避難生活を余儀なくされています。近年、村上市では大きな災害は起きていませんが、大雨や地震をはじめとする自然災害は、いつどこで起きるかわかりません。そんな今だからこそ、防災についてあらためて考えてみませんか？

自分の身を守ることができれば、二次災害を生まず、助ける側、支援する側の人を増やすことにもつながります。被災する人を増やさないためにも災害に備えましょう。

●問い合わせ 総務課総務危機・管理室 ☎53-2111 (内線316)

今すぐやってみましょう

■身の回り(自宅、職場、通勤・通学経路)の危険を確認しましょう

山の近くは土砂災害(崖崩れ、土石流、地すべり)、低地や河川、水路付近は浸水、扇状地や埋立地は液状化のおそれがあります。

危険箇所や避難方法、防災情報の入手方法は、対象地域の各世帯に配布してあるハザードマップでご確認ください。手元がない場合は、市ホームページまたは総務課、各支所地域振興課で入手できます。

■避難場所までの避難ルートを確認しましょう



避難場所までの安全なルートを確認しておきましょう。避難するのが日中とは限りません。

「夜間の場合はこのルートが安全か」「豪雨災害時は冠水しないか」「土砂災害に巻き込まれる可能性はないか」など、事前

に確認しておきましょう。

また、安全に避難ができないと思われる場合、少しでも安全な場所にとどまり、無理な避難はやめましょう。



■備蓄を生活の中に取り入れましょう

今回の熊本地震でもそうだったように、発災からしばらくの間は、物資の輸送が困難になることが予想されます。

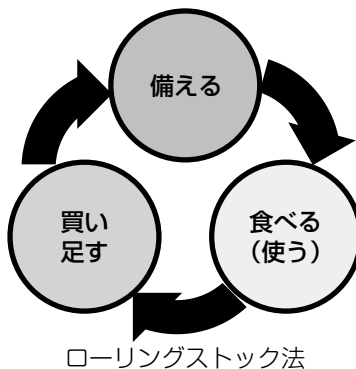
備蓄や非常食という乾パンを思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。今は、普段口にするレトルト食品やお菓子が保存用として販売されていますので、お店などで確認してみてください。

非常時に普段口にしないものを食べるより、自分の好きなものや馴染みのある味のものを食べることで、精神的に落ち着くこともあるでしょう。

また、缶詰やレトルト食品などを普段より



多めに購入しておくことも大切です。それを災害用と考えず、普段のストックを少し多めにする感覚で購入しておき、消費したら買い足すということを続けていくことで、自然と備蓄を生活のなかに取り入れることができます。(ローリングストック法)



■安否確認の方法を決めておきましょう

災害発生時に家族や大切な人と一緒にいるとは限りません。災害時は、電話回線が混み合っており、すぐに連絡がつかない場合があります。

あらかじめ、安否確認の手段を話し合っておきましょう。

災害用伝言ダイヤル（177）

安否情報を録音することで、全国どこからでもその音声を再生（確認）することが出来ます。

災害用伝言板（WEB177）

<https://www.web177.jp>

パソコンやスマートフォンから電話番号を入力して安否情報の登録、確認を行うことができます。

また、ツイッター、フェイスブック、無料通話アプリなどたくさんある連絡手段のうち、どの手段で連絡を取り合うのかを事前に話し合っておくことも大切です。

地震に備えて家屋の耐震化・家具の固定を

地震の際には、家屋の倒壊や倒れてきた家具の下敷きになって怪我をしたり、最悪の場合は死亡することも考えられます。今から30年以上前の昭和56年

5月31日の建築基準法施行令改正以前に建築された建物は、大地震への安全性が低いといわれています。耐震化チェックのために、耐震診断を受けましょう。



防災情報を得るために「むらかみ情報ネット」に登録しましょう

携帯電話やパソコンに防災、防犯、火災などの情報をメールでお知らせします。（登録無料、受信費用は自己負担）下記のURLまたはQRコードから登録できます。

<http://www.city.murakami.lg.jp/mobile/mailmaga/>



※迷惑メール対策などにより受信できないメールアドレスが増えています。今一度「city.murakami.lg.jp」のドメインからメールの受信ができるように設定の確認をお願いします



人命に関わる被災現場を除き、市から個々の家屋への浸水対応（土のう配達など）は行い

風水害に備えて、家屋の浸水対策を

雨が降っている時や浸水後に土のうを設置しても、防水や排水の効果は期待できません。過去に浸水したことがある場所は、近所で協力して事前の浸水対策をお願いします。

また、家具は倒れるものと考えて、家具の固定や配置の見直しで安全な空間を作っておきましょう。

まずは、寝ているときに地震が起きることを想定して、寝室に転倒しやすい家具があれば固定や移動するなどして安全な場所を確保しましょう。

※市では、木造住宅の耐震診断、耐震設計、耐震改修の補助制度があります。今年度2回目の申し込みは、9月を予定しています。詳しくは、都市計画課建築住宅室（内線514）までお問い合わせください

災害時の役割（自助と共助）

皆さんの力で、各自で土のうを準備してください。

災害が発生したときは、自分の命は自分で守る『自助』が基本となります。自分が助からないと、大切な人を助けることはできません。



助けに来た人が二次災害にあつ可能性もあります。自分の身は自分で守れるようにしましょう。

また、隣近所や地域で助け合う『共助』がなければ助からない場合があります。

例えば、6400人以上の死者・行方不明者を出した平成7年の阪神・淡路大震災では、地震によって倒壊した建物から救出され、生き延びることができた人の約8割が、家族や近所の人によって救出されています。

日頃から隣近所で声を掛け合つて、災害時に助け合える人間関係を築いておきましょう。

また、地域に自主防災組織がある場合は、積極的に参加する

地域の防災力アップに出前講座の活用を

よつにしましょう。大規模災害に対する意識が高まっている今こそ、自分自身の防災ときちんと向き合っておくことはとても大事なことです。

町内会などおおむね10人以上の会合で、地域の特性にあつた災害対策や準備方法をお話しします。



内容や時間はご相談ください。料金は無料です。

平成28年熊本地震の義援金

市と村上市社会福祉協議会では、このたびの地震で被災された人々を支援するための募金箱を市役所本庁・各支所に6月末まで設置しています。

皆さまのご協力をお願いします。